

聖書箇所：ネヘミヤ記8章9~18節
「喜びに至る悲しみ」

【1】 神の御思いを知る時

- ・明快に解き明かされたみことば
 - 読まれた内容を理解した民
 - 神の御思いから離れた歩みをしていたことを直視し悲しんだ
- ・主のみことばに教えられるということ

【2】 聖なる日

- ・「今日は、あなたがたの神、主にとって聖なる日である。」(ネヘミヤ 8:9)
 - 第七の月一日
 - 「全き休みの日」
 - 「ラツパの祝日」(参照ビ 記 23:24,民数記 29:1-6)
 - 神の恵みと救いのみわざを思い起こす「聖なる日」
 - その十日後は「贖罪の日」、更にその五日後は「仮庵の祭り」
- ・神の御思いを知り悲しみの涙を流す者たちが目を向けるべきもの

【3】 主を喜ぶことはあなたがたの力

- ・主を喜ぶ
 - = 世代を超え神の民の一員として主の約束を受け取る
 - = 変ることのない神の真実に信頼する
- ・「神の御心に添った悲しみ」と「世の悲しみ」
「神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。」(IIコリント 7:10)
- ・世の悲しみ
 - イエスの弟子ユダはイエスを裏切ったことを深く後悔し罪を認めた(マタイ 27:3-5)
 - 「世」の反応：「われわれの知ったことか」
 - ユダは自分で決着をつけた
- ・神の御心に添った悲しみ
 - ペテロはイエスを裏切った：イエスを「知らない」と主張するためのろわれても良いと誓ったにも関わらず(マタイ 26:74)。
 - ペテロはイエスの「ことば」(復活とガリラヤでの再会)を思い出した
 - ペテロは復活のイエスとガリラヤで再会した

▷あなたに約束された主にある救いの喜びを受け取ることができま
すように。

